

『発達が気になる子』の支援 ～発達障害児への療育実践を参考に～

神経科クリニックこどもの園(牛久市) 精神保健福祉士 菊池春樹氏

日時 : 平成23年12月15日(木) 午後7時～午後9時
場所 : 神栖市保健・福祉会館 2階 研修室
主催 : 社会福祉法人 神栖市社会福祉協議会
申込方法 : 申込書または電話にて12月9日(金)
までにご連絡下さい。



今回の研修会では、幼児から成人までの発達障害を抱える方々へのクリニックでの療育実践を参考にした研修会を行います。発達障害児・者の二次的な障害とはどんな症状か、また、その症状を発症させないために必要な支援のポイントを、実践事例を踏まえて、幼児期に必要な視点にしばって伝えて頂きます。

菊池春樹氏プロフィール

神経科クリニック「こどもの園」(茨城県牛久市)に勤務。精神保健福祉士。博士(ヒューマン・ケア科学)。東京成徳大学 応用心理学部 非常勤講師。千葉県立我孫子特別支援学校 教育相談講師。児童養護施設「双葉園」施設内研修講師。知的障害者デイサービスセンター「わくわく」スーパーバイザー。

子どもが慣れた環境にいるときや大好きな遊びをしているときは特に気にならないが、幼稚園や保育園といった集団の中に入ったときに初めて「あれっ？」と気づく行動があります。

そのような行動の例として、みんなに一齐に指示を出したときに従えない、指示された言葉を理解することが十分に出来ない、年齢相応のコミュニケーションが成立しないなどの例があります。また、一人だけ飛び出してしまう、別のことをしている、あるいは固まってしまう、順番が待てないなど行動上の問題がある場合もあります。

こういった行動があるからといってすべてが「発達障害」とは限りません。しかし、診断や障害はなくてもその時々に応じて、子どもにはそれぞれの支援が必要となります。つまり、なぜそのような行動をするのか、その子はどんな場面が苦手なのか、または得意なのか、なにが好きなのかといったことについて個別に「理解する」ことが大切です。

その理解がなく、注意されたり、怒られたりといったことが続いてしまうと子どもは自信を失い、自分を嫌いになってしまいます。さらには、問題と思われる行動がより過剰になったり、自分で動き始めることが出来なくなったりと問題が増大していく要因となる場合があります。

子どもの望ましい行動を増やすこと、子どもが発達しやすい環境を整えてあげることなど、子どもの将来を想像しながら保育園や幼稚園の時期に必要な支援について一緒に考えましょう。



問合せ : 神栖市社会福祉協議会 地域福祉推進センター 担当 : 三浦
電話 : 0299-93-0294 FAX : 0299-92-8750
HP : kamisushakyo.com E-mail : mail@kamisushakyo.com